

地域に広がる福祉教育の活動

～福祉教育活動事例集～



社会福祉法人
静岡市社会福祉協議会

目次

I. 福祉教育活動事例集発行によせて	3ページ
II. 地域との連携によりはぐくむともに生きる力	4～5ページ
III. 福祉教育のプログラムを考える前に	6ページ
IV. 身近な社会資源を活用した活動事例のご紹介	7～10ページ
V. 地域内での世代間交流を目的とした活動事例のご紹介	11～14ページ
VI. 身近な福祉課題を考える活動事例のご紹介	15～17ページ
VII. 募金活動・収集ボランティア活動のご紹介	18～19ページ

◆本誌掲載の語句の説明◆

静岡市社会福祉協議会（市社協）

…社会福祉法に基づき、地域福祉（誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり）の推進を図ることを目的として設置された民間団体です。

地区社会福祉協議会（地区社協）

…主に小学校区を単位として組織された、地域福祉を推進する住民ボランティアによる団体です。詳細説明10ページにあります。

S型デイサービス

…65歳以上の高齢者を対象とした健康増進や生きがいづくり、居場所づくりを目的に地区社協が主体となって実施する事業です。

子育てサロン・子育てトークの会

…地域の子育て中の親子を対象に、子育ての先輩である住民ボランティア（主任児童委員など）が運営する、地域住民の交流の場です。

地域包括支援センター

…高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う相談機関です。



ボランティア市民活動
キャラクター「はとな」



I 福祉教育活動事例集発行によせて

平成 25 年度に福祉教育で学んだ子どもたちの感想です。「地域の福祉施設との交流を通して、相手をいたわったり、相手の気持ちを考えたりすることができました。また、自分たちが周囲から大切にされていることを感じました。」「これまで、障害をもつ方々はかわいそうだと思っていたけど、学習を通して自分の考えが偏っていたと思いました。」

子どもたちは、福祉を学ぶ中で身近な地域社会に目を向け、そこから様々な問題に気付き、自分と人とのかけわりの大切さを学ぼうとしています。これから変化の激しい社会の中で生きていく子どもたちです。一人一人が自分で課題を見つけていくことや、仲間と協同していろいろな情報や自分とは異なる考え方に触れながら学んでいくことが大切です。そのような意味からも、人とのつながりや生き方を学ぶ福祉教育は、学校の教育活動のあらゆる場面を通じて行われるべきものと言えます。

各学校においては、本活動事例集を有効にご活用いただき、子どもに実社会で生きる力を育てていただきたいと思います。最後になりましたが、社会福祉協議会の皆様の日頃の多大なるご支援に感謝申し上げます。

静岡市教育委員会 学校教育課



II 地域との連携によりはぐくむ ともに生きる力



学校と地域のつなぎ役として ～福祉教育における社協の機能・強み～

社協のいちばんの“ウリ”は、地域のさまざまな人材や社会資源とのつながりをもっていること。

社協は地域福祉をすすめていく組織です。そのために福祉教育を大切に、学校を含めた地域のさまざまな場面ですすめられる福祉教育を推進・支援しています。学校ですすめられる福祉教育に対しては、プログラムの企画段階からの相談、地域の社会資源や人材をつなぐコーディネートを担っており、地域のさまざまな資源を駆使したプログラム提案をすることができます。

子どもたちの「学びたい、活動したい」という気持ちを、具体的な活動につなげます。学校の授業や行事の範囲内ではおさまらない、子どもたちの「もっと学びたい・もっと活動したい」という気持ちを受け止める地域の受け皿を用意することも強みです。社協には、そのような子どもたちの気持ちを具体的な活動につなげていく応援ができます。子どもたちの「ともに生きる力」をはぐくむためには、学校・家庭・地域が連携しつつ、地域全体で取り組むことが不可欠ですが、社協は地域のつなぎ役を担うことができます。



地域の中で「ともに生きる力」をはぐくむ福祉教育



地域の中にある学びの場

福祉教育は、身の回りの人々や地域との関わりをとおして、そこにどのような福祉課題があるかを学び、その課題を解決する方法を考え、解決のために行動する力を養うことを目的としています。

今の子どもたちは地域の大人とかかわる機会そのものが少なくなっています。身近な地域に暮らす、障害のある人や高齢者を含めたさまざまな人々と関わり、学ぶことを通して、子どもたちはコミュニケーションの力を高め、多様な生き方にふれ、命の大切さや思いやりの心、相手を理解しようとする豊かな心をしっかりとはぐくみます。

福祉教育を通してはぐくまれる力

また、出会いや関わりを通して、自分と違う立場の人と認め合い、人の気持ちに共感できる力や自分の考えを表現する力、考えを共有し実行につなげていく力等の「ともに生きる力」をつけていきます。さらに子どもたちが地域の中で交流や活動をすることで地域の人から感謝されたり、大切に思われていることを実感でき、自己肯定感や自己有用感を積み重ねていくことができます。

子どもが変わる！大人が変わる！地域が変わる！

こうしたことは子どもたち一人ひとりの「学び」や「育ち」につながるだけでなく、クラスや地域の中においても、お互いの違いを認め合い排除しない仲間づくりへとつながっていきます。

子どもたちが学びを通して変わることで、大人や地域もともに学び、変わることができると考えています。

学校教育の中で福祉教育プログラムの活用を

新学習指導要領においては「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の知・徳・体を育て、「生きる力」をはぐくむことが掲げられています。協調し人を思いやる心などの豊かな人間性を築いていくためにも「ともに生きる力」をはぐくむ福祉教育のプログラムは有効であると考えます。

社協が1970年代からすすめている福祉教育のとりくみは、まさしくこの「生きる力」に通ずるものであり、そのためのノウハウと人や社会資源のコーディネート力を持っています。



出典「地域との連携によりはぐくむともに生きる力」（全国社会福祉協議会 平成25年3月）より



III 福祉教育のプログラムを考える前に

福祉教育とは、“すべての人間が生命ある在として尊ばれ、差別や排除されたりすることなく、社会生活の中で共に支え合い、一人ひとりが生きる喜びを味わうことができるよう「共に生きる力」を育む教育”です。

(全国社会福祉協議会「学校における福祉教育ハンドブック」1995より)

自分自身が、生命あるかけがえのない存在であること。

そして、自分を取り囲むすべての人々もまた、かけがえのない一人ひとりの人間であること。

それらを心の奥深くで理解することは、福祉教育の出発点と言えるのかも少しありません。

様々な人と出会うこと。

生命を見つめ、生命と向き合い、生命について話し合うこと。

家族や学校、地域社会の中で支え合いながら、“生かされている自分”の存在を感じ、今の自分ができることを考え、行動すること。

そのような体験の積み重ねが、「共に生きる力」を育てていくのではないのでしょうか。

この事例集に取り上げたテーマは、あくまで参考例です。

地域性や学校の特性などにより、取り組みは色々考えられると思います。

人によって様々な福祉観があるのと同じように、福祉教育で「これをしなくてはいけない」ということや、「これが正解」ということはありません。

福祉教育のきっかけは、私達の身近な生活の中に沢山あります。

子ども達と同じ目線で、毎日の生活を見つめ直してみてください。

福祉教育のテーマが、きっと見えてくるでしょう。

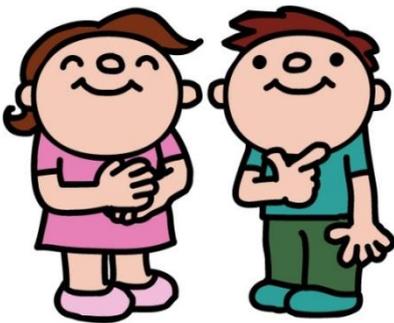


IV 身近な社会資源を活用した活動事例のご紹介

事例①小学校と障がい者就労施設利用者との交流

活用した社会資源：障がい者就労支援施設、地区社協、市社協

A小学校では、総合的な学習の時間の取り組みとして、地域にある障がい者就労施設で働いている方たちと関わりをもちたいと考え、施設見学や交流会を行うことになりました。



施設見学

学区の中で福祉に関係する場所の一つとして、障がい者が働く場所があることを学び、どんな人が働いているか、どんなことを行っているか見学に行きました。障がい者や職員の方から思いや仕事内容を聞き、それぞれができること・得意なことで協力して仕事をしている様子を見ることができました。

POINT! 街中にある施設はあまり建物が大きくない所も多く、クラス全員での訪問が難しい場合や、利用者の方々の送迎で対応が難しい時間帯があるなど、施設側の条件を確認した上で訪問の日時を決めるとよいでしょう。

打ち合わせ

交流会の実施にあたって、先生と施設とで打ち合わせを行い、交流の内容は子どもが準備したゲームと、施設で用意した仕事体験をお互いに体験し合うことにしました。

様々な障がいのある方々が参加するので、駐車場や階段・段差の有無、トイレなどの設備、会場内の配置など、動線上の確認を行いました。また、交流会の前に講話の時間を設け、利用者の方にできること・できないことを含めてどのような生活をしているかお話をしていただいたり、車いすなどの疑似体験を行って、交流会での内容を考える材料にすることにしました。

POINT! 交流の前提として、「障がいの理解（障がいによる不便さなど）」「障がい者の生活の理解（できること、できないこと、工夫していることなど）」「障がいを持っている●●さんの理解（性格や趣味、生活から見える人となり）」「バリアフリーなどの考え方（解決の方法としての着目の視点）」など、障がいについても色々な面からのアプローチができるので、何を主題にして交流会を行うかを明確にしておく、相手方との相談が進めやすくなります。



事前準備

小学生が「障がいがある人も一緒に楽しめる」ゲームを、グループごとに考えて準備しました。案ができたところで、先生から施設に連絡し、その案で本当に一緒に楽しめるかを確認してもらい、難しいところは変更していきました。

POINT! 人によってできること・できないことがさまざまなので、子どもが考えるだけでなく、一度施設側に確認してもらって難しい所を教えてください、その理由を考慮して手直しすることで、相手の立場に立った考えを深めていきます。できないことは全部子どもが手伝うのではなく、なるべくやる人が自分でできるような工夫を考えます。

例) 車いすユーザー…物を取るゲームは、手が届く位置になるよう配置を工夫する
聴覚障がい…話の内容を紙に書いて伝えられるようにする
知的障がい…読みがなをふったり、内容を絵でも表す
手指の細かい動作が苦手、力が入りにくい(肢体不自由、知的障がい、高齢など)
…微調整や力がいらぬ動作にする、ルールの工夫や補助具を使用するなど

自分たちでゲームや出し物を作るほかに、障がい者スポーツを取り入れてもよいでしょう。障がいの有無に関らず一緒にプレイできるルールや工夫がされている点を学ぶことができます。

交流会当日

小学生からはボーリングゲームやクイズ、お店やさんごっこや車いすスラロームなど、グループごとに考えたゲームを行い、利用者は楽しんで参加していました。子どもが呼び込みの声をかけたり、遊び方を教えたりと、積極的に関わろうとする姿が見られたほか、子ども達もゲームで遊ぶなど、楽しい雰囲気での交流ができました。

施設からも紹介をすることで、利用者の思いを知ってもらったり、存在を身近に感じてもらえるようにしていました。

POINT! 子どもと障がい者の関係を、「やってあげる」ではなく「教え合う・伝え合う」ことができるような交流の形を考えることが大切です。施設(団体)ではなく個人との交流の場合も、同様の流れがとれると良いでしょう。地域の施設や住んでいる人と交流を行うことで、地理的な要素(〇×スーパーで〜)を子どもと共有できること、学校での学習後も地域内で出会い、日常の挨拶やイベントへの参加などを通して、同じ地域に住む一人として自然な関わりが期待できます。



事例②中学校での高齢者との交流会

活用した社会資源：地区社協、老人クラブ、市社協

B中学校では、福祉学習の日として、車いすなどの体験のほか、地域のお年寄りから昔の生活や体験談についてインタビューする時間を作り、高齢者との交流を行いました。

地元の地区社協と老人クラブに呼びかけや参加者の募集をお願いしました。



打ち合わせ

団体の代表者と打ち合わせを行い、当日の内容やグループ分け、進行の仕方などを確認しました。高齢者の参加は、地区社協や老人クラブで呼びかけてもらいます。

POINT! 学校で具体的なイメージがある場合は、この時に伝え、高齢者からどんなお話が聞きたいかなども呼びかけの際に伝えてもらうとよいでしょう。

事前学習

質問したいことを事前にまとめ、司会役を決めておくなど質問や意見が出やすい工夫を考えます。

POINT! 参加する高齢者でも、話のうまい人、口数の少ない人など様々おり、話し合いの盛り上がりには差が出てしまうため、話す内容をどんなこと（事実）→なぜそれなのか／どう感じたか（理由・背景・感想）まで聞くように決めておくなど、理解が深まるようにします。

例)「質問カード」を作る、ゲーム形式など話しやすい環境で子どもと高齢者それぞれに同じ質問（高齢者の場合は、同じ年代の時にどうだったか）をして、違いを聞いてみましょう。

好きな食べ物、兄弟・姉妹の人数、特技、夏休みやお正月の過ごし方… など



交流会当日

グループごとにインタビューを実施しました。生徒と高齢者数人ずつのグループになり、用意した質問をもとに話を聞きました。高齢者の話からは、食べ物が今のように豊富でなかったり、昔は空地など遊ぶ場所があったりなど、昔と今の環境の違いを知ることができました。

POINT! 前後に疑似体験等を実施する場合、交流する相手に合った講話や体験ができると、体験・知識の両面から理解を深めることができます。体験プログラムを工夫するほかに、高齢者と関わっている老人クラブや地区社協、地域包括支援センター、高齢者施設の職員から、それぞれの目的・意味や内容と現状、関わる人の思いなどの話を聞くことができます。

- 例) ●老人クラブ・S型デイサービス…お元気で体も動く方が多いです
●介護保険のデイサービス等の通所施設…介助・介護が必要な方、軽度の認知症の方など
●特別養護老人ホーム等の入所施設…介護が必要な方、重度の認知症の方もいます

振り返り

生徒は感想文を記入。現在と昔の状況の違いを感じながら、そのような環境の中で生活してきた高齢者の人生に思いをはせ、色々な経験をしてきた先輩として高齢者を敬い接する心が感じられました。

事例③地区社協への協力、情報提供・啓発

地区社協とは…

地区社協（地区社会福祉推進協議会または地区社会福祉協議会）は、住民一人ひとりが社会福祉に参加して、地域の中の助け合いを育てていくための組織です。地区住民や、町内会・自治会、民生委員・児童委員、その他地区の各種団体によって構成される住民組織です。

地区社協は、私たちの生活上のいろいろな問題や課題について話し合い、問題解決のための活動や福祉の風土作りを進めていく活動をしています。現在市内の74の地区に設置され、それぞれ地域に根ざした福祉活動を展開しています。

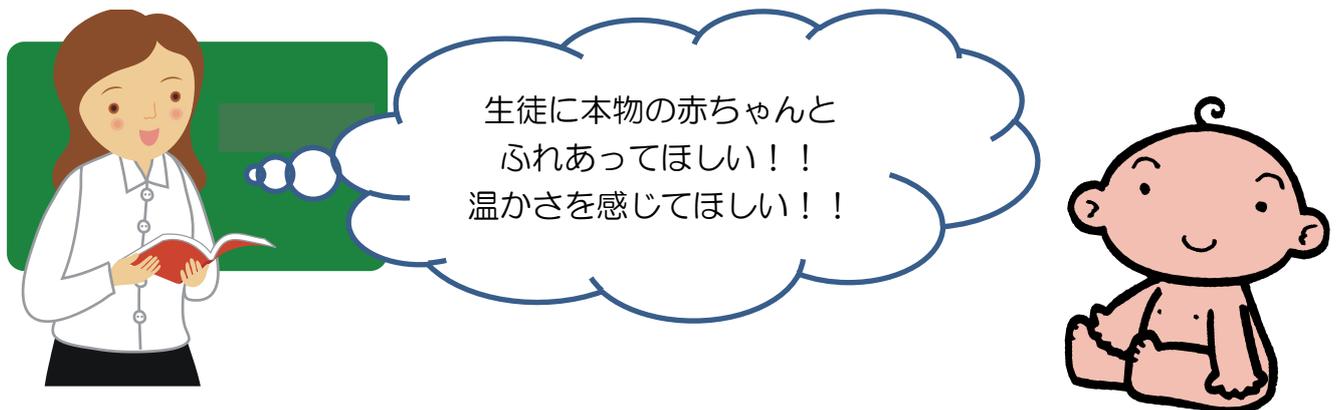
- ◆D小学校やE中学校では、地域の福祉を考える講話として、地区社協の会長やボランティアに講演してもらいました。
- ◆夏休みなどの長期休暇中に、子どもが自主的に福祉に関する活動に取り組めるよう、地区社協にて体験事業の実施やS型デイサービス等での受け入れをしているところも多くあります。福祉体験・ボランティア体験の情報を生徒への周知するほかに、参加した生徒の様子を校内新聞などで取り上げ、どんな活動をしたか知らせている学校もあります。



V 地域内での世代間交流を目的とした活動事例のご紹介

事例①中学生と赤ちゃんとの交流

活用した社会資源：児童館、地区社協、市社協、保健福祉センター



家庭科のカリキュラムに合わせて、赤ちゃんやその親との交流をすることになりました。

ねらい：乳幼児とのふれあいを通して、命の大切さやこれまで自分が育つまでに受けてきた愛情に気付く。

POINT! 学校の授業で行うことで、児童館で行う赤ちゃん交流などには自発的に参加しない生徒も経験できます。

打ち合わせ

中学校、児童館、地区社協、市社協、保健福祉センターで打ち合わせを行い、ねらいの確認や方法の検討、役割分担を行いました。

中学校：日程調整、生徒の学習指導

児童館：手遊びの指導、親子への協力依頼、交流会当日の進行

地区社協：子育てサロンの親子への協力依頼、交流会当日のファシリテーター

市社協：全体のコーディネート、記録

保健福祉センター：事前学習での指導、親子への協力依頼

協力してもらう親子の募集は、児童館・地区社協・保健福祉センターがそれぞれの施設の利用者やサロン参加者の親子へ声かけを行いました。



事前学習

保健福祉センターの講義を受けました。事前に赤ちゃん人形を抱っこしたり、グループワークで赤ちゃん和家人の一日の生活を考えたりしました。



生徒の声

一日に必要なお世話の回数にびっくり。赤ちゃんを育てるのが大変。でもかわいいんだろうなあ…

交流会

実際に赤ちゃんとお母さんが来て(中にはお父さんが来てくれることも!)、クラスごとに交流しました。赤ちゃんと遊ぶだけでなく、お母さんとのお話の中で出産までの心の動きや生まれてから感じた思いを教えてくださいました。

お母さんの中にはこの中学校の卒業生もおり、この地区で育って、地域で子どもを産み育てることへの思いも語ってくれました。

お母さんや赤ちゃんとなかなか関わっていない生徒には、地区社協のファシリテーターが声かけして上手に繋げてくれました。

POINT! お母さんと話すきっかけとして、事前に「聞きたいこと」などを考えてきてもらうとスムーズです。

事後振り返り(生徒)

生徒はアンケートを記入しながら、命の大切さはもちろん自分のこれまでの人生を振り返り、いろんな人の力を借りて大きくなったということへの感謝や、自分が親になることについて思いをはせたようでした。

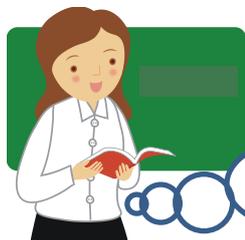
事後振り返り(学校、児童館、地区社協、市社協、保健福祉センター)

協力した関係団体が集まり、生徒や参加した親子からのアンケート結果を見ながら、ねらった学びが得られていたかを確認しました。親御さんも中学生の学びに役立ったと感じられたようで、生徒だけでなく子育て世代にとっても良い経験になっていました。ぜひ来年も実施したいと、各団体から次年度の継続について話が出ました。



事例②小学生ふれあいスクール

活用した社会資源：地区社協、市社協



先生

- ① 地域の方と顔見知りになってもらいたい！
- ② 障がいの有無や年齢に関わらず、自然に遊べる関係を作ってほしい！



地区社協

子ども達から
元気なあいさつが聞きたい！

「地域の方にもっと子どもを知ってほしい」という先生の思いと、「子ども達があいさつすると逃げたてしまう…」という地域の悩みから、地域に暮らす子どもからお年寄りまで、みんなと一緒に遊ぶことで自然にあいさつができる関係づくりができないか、と地区社協で企画「ふれあいスクール」が考えられました。

POINT! 地区社協は主に小学校区ごと組織されているため、学校と連携した企画が考えやすいです。

打ち合わせ

小学校、地区社協、市社協の担当で打合せを行い、ねらいの確認や方法の検討、役割分担を行いました。

小学校：子ども・保護者への声かけ、参加者取りまとめ

地区社協：地域への声かけ、周知チラシ作成、内容検討

市社協：福祉教育的視点の説明、学校と地区社協の連携支援



地区社協の動き

地区社協では、子ども支援担当の部会で話し合いが行われ、子ども達が楽しい一日を過ごせるように遊びの内容や演出を考えました。

小学校から特別支援学級の生徒も参加すると連絡があり、どのように接すればよいか話し合いました。市社協や小学校の特別支援学級の先生からの話をきいて、あまり構える必要はなく、同じ地域の子どものように接すればよいと分かり、できる限りわかりやすく伝える工夫をしながら進めていくことになりました。

事前学習

地域から参加する大人の中には、年齢の高い方もいます。子ども達が自分のペースで遊ぶと地域の方に無理をさせてしまうのでは、と考えた小学校では、参加する子ども達に対し「みんなが楽しいふれあいスクールにしよう」と伝える時間をもちました。

POINT! 「大人が子どもを」「子どもが大人を」一方的にもてなすのではなく、「みんなが楽しめる」場所をつくります。

当日

子ども達が思いきり動けるゲームと座ってできるゲームを行い、大人も子どもも無理なく楽しい一日を過ごせました。ゲームの間には長めの休憩時間を設け、地区社協からプレゼントされたおやつと一緒に食べながらお話しして、さらに仲良くなれました。ふれあいスクールが終わる頃には、自分から「ありがとうございました!」「さようなら」「またね!」とあいさつができていました。

事後振り返り（小学校、地区社協、市社協）

小学校では、地域の方に見守ってもらっているということが感じられたこと、学校内でも他学年や他学級の間につながり作りになったことなどの利点が挙げられ、ぜひ今後も続けて行っていきたいという話がありました。

地区社協でも、地域の方に喜んで関わってもらえたこと、子ども達からの登下校時のあいさつが増えたことが報告され、継続していきたいという意見が出ました。また、特別支援学級の子どもについて、「会う前はどのように接すればいいか不安もあったが、実際に接してみたら、他の生徒と変わりないかわいい子ども達だった。障がいの有無に関わらず、地域の子どものようにこれからも接していきたい」という気付きも語られました。



VI. 身近な福祉を考える活動テーマのご紹介

テーマ①

どうして毎日学校に通うのかな？

◆◆身近な生活の中から考えてみよう◆◆

- ① あなたにとって、学校はどんなところ？
- ② どうして学校があるのかな？どうして勉強しなくちゃいけないの？
- ③ 「学校が楽しい」と感じるのは、どんな時？
- ④ 学校に行けなくなったら、どんなことで困るかな？
- ⑤ 世界の子ども達は、どんな教育を受けているの？
- ⑥ 「学校とは、〇〇のようだ」・・・〇〇にあてはまる言葉を考えてみよう。
- ⑦ 詩を読んで、感じたことを話し合ってみよう。

この世の中、何ものぞむことはなかった。
毎日いやなことばかりだった。
このしゅだんしかなかった。
さようなら。がんばれ、みんな。
ぼくはこれがげんかいです。



- ⑧ 「ケンカ」と「いじめ」の違いって何だろう？
- ⑨ 〇〇さんのお話を聴こう。(福祉教育講師など)
- ⑩ ぼく達・わたし達のクラスや学校を、どんなふうにしていきたい？

そのために自分ができることは何だろう？(クラス、学年、学校単位でも考えてみよう。)

◆◆発表してみよう・実際にやってみよう◆◆



「児童虐待」って？「児童福祉」って？

◆◆新聞記事から考えてみよう◆◆

- ① どうしてお父さんやお母さんに暴力を振るわれたり、いじめられたりする子どもがいるの？
- ② 「児童虐待」ってどんなこと？
- ③ 「児童憲章」「児童福祉法」を読んでみよう。
- ④ お父さんやお母さんがいなくなったら、どんな気持ち？どんなことが困るかな？
- ⑤ お父さんやお母さんがいない子は、どうすればいいの？
- ⑥ 誰にも言えないようなことで自分が困ったり、お友達が困っていたりしたら、どうすればいい？
- ⑦ 困っている子どもを助けてくれる人は、どんな人？助けてもらえる場所はどこ？
- ⑧ 児童福祉に関わる人からお話を聴こう。

(保健室の先生、地域の民生委員さんや主任児童委員さん、児童館の児童厚生員、

里親の会の方、児童養護施設の職員さん、…など)

- ⑨ 今、ぼく達わたし達にできることは何だろう？



◆◆発表してみよう・実際にやってみよう◆◆





テーマ③

「自分らしさ」って何だろう？～価値観を認め合う～

◆◆クラスの中でやってみよう◆◆

- ① ビンゴをやってみよう（自己紹介ビンゴ、数字ビンゴ、好きなものビンゴ…等）
— どうしてそのテーマを選んだのかな？（テーマを）選んだ理由を話してみよう！
お友達を選んだ理由も聞いてみよう！
- ② 自己紹介を考えてみよう
— ぼく・わたしはどんな人なのかな？
- ③ クラスの友達の好きなところやすごいと思うところを挙げてみよう
— どうして友達のそこが好き？どうしてすごいと思うのかな？
- ④ 先生や家族から、自分のいいところや好きなところを聞いてみよう
— 自分では気づいていない、自分の魅力を教えてもらおう！
- ⑤ 家族で大切にしている約束ごとはどんなこと？
— 友だちの家での約束ごとも聞いてみよう！
- ⑥ 家族や友達と意見が違ふとき、どうしたらいいのかな？
— いろいろな思いがあることを知ろう！
思いが違っていても、一緒に前に進むために大切なことは何だろう
- ⑦ 「自分らしさ」って何だろう？「価値観を認め合う」ってどんなこと？
— “ノーマライゼーション”の考えを知ろう！

◆◆発表してみよう・実際にやってみよう◆◆



VII. 募金活動・収集ボランティア活動のご紹介

気軽に多くの人に参加することが出来る活動として、募金活動や収集ボランティア活動があります。ここでは、活動の進め方、進める上での留意点などをご紹介します。

活動の進め方



募金活動Q & A

赤い羽根共同募金と歳末たすけあい募金の違いってなに？

『赤い羽根共同募金』は、地域ごとの使い道や集める額を前年に定めて、その翌年に募金を呼びかける「計画募金」です。



集まった募金の約 70% は、募金をいただいた地域で使われ、残りの 30%は、住んでいる市区町村を超えた広域的な課題を解決するための活動に、都道府県の範囲内で使われています。

『歳末たすけあい運動』は、共同募金運動の一環として地域に住むさまざまな人や団体の協力のもと、その年の新しい年を迎える時期に、支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことを『支援する』募金活動です。



災害時の「義援金」と「支援金」の違いってなに？

『義援金』は、被災者への配分を用途として、赤十字、赤い羽根共同募金等が受け皿となって一括して集めます。集まったお金は基本的に被災者に配分される仕組みになっています。



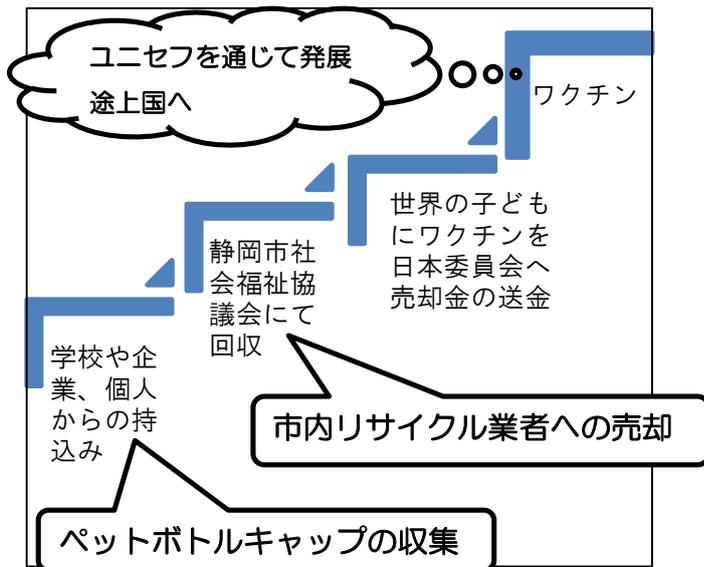
『支援金』は、被災した地域の現場で活動している、災害支援 NPO や NGO に対する活動資金に使われるものです。



収集活動Q & A

ペットボトルキャップはどのようにして「ワクチン」にかわるの？

ペットボトルキャップを売却した収益金を『世界の子どもたちにワクチンを日本委員会』へ寄付します。委員会では、その寄付金を使い、『ユニセフ』を通じて発展途上国へワクチンを送る活動をしています。キャップとワクチンが直接交換される活動ではありません。



静岡市内ではどんな収集活動ができるの？

現在、静岡市内では、『静岡県社会福祉協議会』がペットボトルキャップの回収を市内 3 カ所で行っています。その他に市内福祉施設・団体では、アルミ缶や古切手の回収をしています。集める前に施設や団体での活動を確認すると目標をたてて活動が出来ます。

それってほんとに集めているの？

例えば、「割り箸の袋」を集めて車椅子に交換しようという運動が全国的に展開されたことがあったそうですが、現在は行っていません。集める前に今も集められているもの確認することが大切です。





葵区地域福祉推進センター

葵区城東町 24 番 1 号
 城東保健福祉エリア 地域福祉交流プラザ内
 T E L : 249-3183
 F A X : 209-0128

お近くのセンターまで

お気軽にご連絡ください!

福祉教育の企画に関する相談、講師の紹介や福祉用具の貸し出しなどを行います。



清水区地域福祉推進センター

清水区宮代町 1 番 1 号
 清水社会福祉会館（はーとびあ清水）内
 T E L : 371-0292
 F A X : 367-2460



駿河区地域福祉推進センター

駿河区南八幡町 25 番 21 号
 南部生涯学習センター敷地内
 T E L : 280-6150
 F A X : 286-9545



発行元 社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会

発行日 2014 年 3 月 発行部数 1000 部

